

フォルケホイスコーレであるオレロップ体育アカデミーと
デンマークの教育制度及び教員養成についての研究

工藤亘 鈴木淳也 河野峻平 小林潤
宮崎純子 大澤誕也 中村麻衣

玉川学園・玉川大学
健康・スポーツ科学研究紀要
第18号

フォルケホイスコーレであるオレロップ体育アカデミーと

デンマークの教育制度及び教員養成についての研究

工藤 亘^{*1}、鈴木 淳也^{*1}、河野 峻平^{*2}、小林 潤^{*3}、宮崎 純子^{*3}、大澤 誕也^{*3}、中村 麻衣^{*4}

要約

日本とデンマークの教育制度や教員養成制度は大きく異なり、デンマークの根底にはグルントヴィやコルの教育思想が反映されていることがわかった。デンマークの私立学校やフォルケホイスコーレ等もグルントヴィやコルの思想の影響を受け独自性が高く、体操中心のフォルケホイスコーレであるオレロップ体育アカデミーも同様であり、それを踏まえた健の教育の研究や研修が必要である。

1. はじめに

平成 29 年度小原國芳教育学術奨励基金にて研究主題「玉川大学・玉川学園とオレロップ体育アカデミーとの体育教育交流に基づく体操の指導法・補助法及びスポーツに関する指導法の共同研究 - オレロップ体育アカデミーにおける K-16 体育科教員研修を通して -」が承認され、平成 30 年 3 月 19 日～27 日まで K-16 体育科教員（上記 7 名）がオレロップ体育アカデミーにて研修を実施する予定である。

そこで本研究は、オレロップ体育アカデミーでの体操の指導法・補助法及びスポーツに関する指導法を研究するにあたり、①デンマークの教育思想や玉川学園との経緯等を整理する、②デンマーク独特の教育制度と教員養成制度およびフォルケホイスコーレの意義を理解することを目的とし、その上で研修に臨み、今後の健の教育に還元したいと考える。

2. 玉川学園とオレロップ体育アカデミーとの関係

1920 年にニルス・ブックがオレロップ国民高等体操学校を設立し初代校長となった頃、小原國芳は成城小学校に勤めており、後に世界の素晴らしい体操家は N・ブックであると紹介した三橋喜久雄と出会っている。三橋は 1922 年に文部省の海外留学としてアメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、デン

マークで体操を学んだ人物であり、東京高等師範学校時代の教え子に大谷武一、森秀、森梯次郎、三浦ヒロ子等がいる。この教え子等が 1928 年に「国民保健体操」（旧ラジオ体操第一）を考案したのである。

1929 年に小原國芳が玉川学園を設立し、齊藤由理男をオレロップ国民高等体操学校（現オレロップ体育アカデミー）に留学させている。1931 年 9 月には小原國芳がブック校長と体操チーム（26 名）を日本へ招聘し、全国で発表会を開催したことによりデンマーク体操（基本体操）が日本中に普及したのである。それを機に玉川学園は「オレロップ国民高等体操学校東洋分校」となり、玉川学園の健の教育の礎としてスキーと共にデンマーク体操を位置付けたのである。玉川学園の体操教師が指導したことで国鉄体操、海軍体操、航空体操が生まれ、日本中に体操を通じた影響を与えたと考える。1932 年には旧ラジオ体操第二が制定されたが、前年に普及されたデンマーク体操の影響を受けていると考えられる。

1951 年に現行のラジオ体操第一が放送開始され、体操の考案・制定委員に三橋と大谷らがあり、1952 年のラジオ体操第二も同様であり、ラジオ体操はデンマーク体操の影響を受けているといえるのである。

1978 年 9 月 1 日には、オレロップ国民高等体操学校グナー校長と玉川大学小原哲郎学長との間に改めて「体操教育交流に関する協定」が結ばれている。それには両校の交流の歴史が記された後「両校は、この歴史と伝統を互いに尊重しつつ、さらに一層緊

^{*1} 玉川大学教育学部 ^{*2} 玉川学園低学年

^{*3} 玉川学園中学年 ^{*4} 玉川学園高学年

密な関係を深め、体育を通して人類の幸福というより高い次元の共通の目的達成を希望」として、以下の6事項が約束されている。(原文引用)

1. 体操の創造的および技術的研鑽のため、教員および学生の研修交流を行う。
2. 教育・研究活動を援助するために相互に努力する。
3. 教育・研究活動に必要な情報資料を交換する。
4. 玉川大学は、オレロップ・ギムナスティック・アカデミーの東洋分校であることを確認する。
5. 玉川大学は、玉川大学においてデンマーク体操を研修した者に対して、玉川大学が認定した場合にOTD章を授与することができる。
6. 本協定は相互間に協定継続の必要性がなくなった場合、事前に通告して破棄することができる。



左：OD章、右：OTD章

以上の経緯や協定をもとに戦後、玉川大学・玉川学園からは橋本道、門脇朗示、古谷太郎、永井三千昭、田中五造、山本繁夫、前田二郎、工藤亘がオレロップ体育アカデミーに長期留学し、OD章を授かっている。(資料)2006年8月からの工藤の留学以来、長期での研修はないがそれまでに多くの体育科教員が短期研修を行っている。一方、これまでにオレロップ体育アカデミー教師による玉川学園での体操講習会等は幾度も実施されており、教員相互の交流も盛んである。

2011年12月12日、オレロップ国民高等体操学校東洋分校創立80周年を記念して玉川学園記念体育館前にニルス・ブック像が建立され、両校の歴史的な関係性の深さと相互尊重の姿勢の表れと考える。

2012年12月には、現オレロップ体育アカデミーウフェ校長と小原芳明学長との間で「体育教育交流に関する協定書」が交わされ、玉川大学がアジア地区におけるパートナーであることが再確認され、以下の3事項で協力することになっている。(原文引用)

1. 体操やダンス、他のスポーツの創造的および技術的研鑽のために、教員および学生の研修交流を行う。
2. 教育・研究活動を援助するための情報等を共有する。
3. 玉川大学は、玉川大学においてデンマーク体操を研修した者に対し、OTD章を授与することができる。

2015年にオレロップ体育アカデミーのエリートチームが来園し、発表会や児童・生徒・学生へのワークショップを実施したが、日程の関係で玉川学園K-16の体育科教員が体操の指導法等を学ぶ機会は限定的であった。またエリートチームの演技発表会を見た児童は「まるで物語みたい!」と目を輝かせて言っており、本物を見ること・触れることの重要性を再確認したところである。

全人教育の「健」を担う健康教育において、デンマーク体操を次世代の教員に継承することには大きな意義があると考ええる。また玉川大学・玉川学園において体育・スポーツを今後どのように発展させていくかを研究し続ける必要があり、オレロップ体操アカデミーとの伝統的なつながりを継承しながら、今日的な課題を解決し、さらに発展させていくことがK-16体育科教員の役目と考える。

1867年に日本とデンマークとの間に修好通商航海条約が締結され、2017年は150周年という節目の年でもある。またオレロップ体育アカデミーは2020年に創立100周年を迎えるが、K-16の体育科教員がオレロップ体育アカデミーにて研修することは、両校が永続的な関係性をより深めることにもつながり、さらに共同研究を行うことで今後の健の教育に大いに貢献したいと考える。

3. グルントヴィとコルとデンマークの学校

NFS. グルントヴィ (1783-1872) は北欧神話の学者・神学者・詩人・教育思想家であり、デンマークの成人教育において重要な役割を担った人物とされデンマーク近代教育の父と呼ばれている。グルントヴィの携わった讃美歌は現在でもデンマークの教会中で人々によって歌われている。またデンマーク教育省による分類では自由成人教育に位置付けられて

いる「フォルケホイスコーレ」という全寮制の学習機関の教育思想を構想し、デンマーク国内及び欧州を中心とした海外で高い評価を受けている。

デンマークはグルントヴィの教育思想に基づき、①国民教育（義務教育）、②研究準備教育、③職業準備教育の三つの教育制度があり、そのキーワードは「フォルケオプリュスニング」（民衆の社会的自覚）である。フォルケとは国民・民衆という意味であり、「人々が対話と相互作用を通じて、共同性・歴史性に目覚め、人間の生の不可思議さ、尊厳を知り、皆と共に力を合せて生きること」に覚醒し、自覚することがその根底にある。

クリステン・コル（1816-1870）は、デンマーク独自の民衆の口頭教育と対抗教育の創始者の一人であり、近代の公教育に大きな影響を与えた人物である。このコルが著した「子どもの学校論」はデンマークの教員養成大学で必読書になっており、口頭教育の学校や公立学校の教育指針となっている。

デンマークの教育制度を大別すると公立と私立があり、年齢や目的によって学校系統が区別されている。（図1）

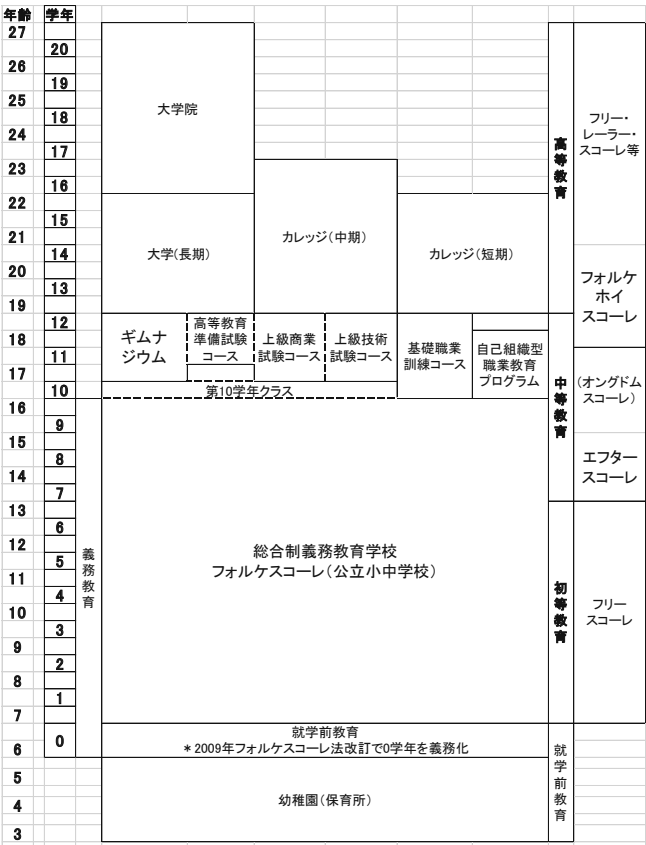


図1. デンマークの学校系統

公立学校は、フォルケスコール・ギムナジウム・大学が主な学校系統になる。フォルケスコールは公立の総合制義務教育学校でありコムーネ（市に相当）が官掌し、初等教育と下級中級教育を一緒にした教育システムである。

2009年のフォルケスコール法改訂によって0学年から就学前教育として義務化され、0～9学年（希望者は10学年）までの6歳～16歳が対象である。また2014年には「毎日何らかの運動を授業に加えること」が義務化されている。教師1人あたり平均の児童数は20人程度であり上限は28人である。教材は教師が自由に選択でき、カリキュラムのガイドラインは政府指定だが、実際の運用は教師と保護者との会議で決めることになっている。10年間の義務教育後、半数以上は卒業するが、任意で10学年へ進級する場合もある。以下はフォルケスコールの必修科目の一覧である。（表1）

表1. フォルケスコールの必修科目

科目群	科目名	対象学年
人文系科目	デンマーク語	全学年
	キリスト教	全学年
	英語	1～9学年
	歴史	3～9学年
	社会	8～9学年
クリエイティブ系科目	スポーツ	全学年
	音楽	0～6学年
	美術	0～5学年
	木工・手芸・家庭のいずれか一つ	4～7学年
科学系科目	数学	全学年
	自然科学	0～6学年
	地理	7～9学年
	生物	7～9学年
	物理および化学	7～9学年
特別科目	交通安全	
	健康と性教育	
	職業体験	
選択外国語	ドイツ語	5～9学年
	フランス語	5～9学年

出典：児玉珠美『デンマークの教育を支える「声の文化」』新評論、2016年、p73に筆者加工。

＊ITとメディア、イノベーションと起業、言語発達等、複合領域における科目も新設されている。

ギムナジウムは国内に約150校あり、一般的な上級中等教育の中で日本の普通科高校に相当し、アムト（県に相当）が管掌している。3年間の過程でカリキュラムは「語学コース」と「数学コース」の二つがあり、大学進学準備をする学生と同様の一般教

養を受けられることが目的である。3 年後の終了試験（大学入学資格試験）を経て大学へ進学するのである。

大学は5年制であり、医者、教師、学者、法曹関係者、エンジニアなどの専門職養成の場である。総合大学は、コペンハーゲン、オーフス、オーデンセにあり、大学センターは、ロスキレ、オールボー、単科大学は、各地に工科大学、教員養成大学がある。

私立学校は、フリースコーレ・エフタースコーレ・フォルケホイスコーレが主な学校系統である。フリースコーレは、フォルケホイスコーレ運動の中で生まれ、私立の小・中学校の約20%以上が通い、1クラスあたり平均11名である。

授業科目やカリキュラムの自由度が高く、音楽、美術、陶芸、木工・金工、染め物、ダンス、身体表現、演劇、体操等を重視しており、教科書は各教師が決めている。

教師の担当クラスは持ち上がりであり、原則として試験は実施しないが卒業時に義務教育課程の終了を証明する国家試験を行っている。また教師は一定期間学校を離れ、大学・フォルケホイスコーレ・デンマーク教員ホイスコーレ（教師のための研修機関）で担当科目（3科目）の研修ができる。

フリースコーレの特徴は、①就学義務がなく、自分で学ぶ権利がある。②中学1年まで試験を禁止している。③1クラス28名以下と法律で定められており、全国平均では1クラス19名（1994年）である。④公立学校の教育に不満があったり、公立学校が合理化で閉鎖された時、自分達で私立学校をつくってよい。⑤行政は、この私立学校の経費の75%を補助しなければならない。⑥私立学校の教員は教員資格がなくても構わず、普通の人でもなれる。⑦転校は自由。学区制はない。⑧公立学校、私立学校とも理事会が運営する。公立学校の場合、通常12名の理事会に2名の生徒代表委員の参加が義務付けられている。⑨第10学年があり、自分の意志で義務教育機関を10年にできる。半数以上の子どもが第10学年に進級している。⑩公立、私立を問わず、放課後小学校4年生までの児童が集う施設をもつ。専任教員がおり、親が迎えに来るまで預かる等である。

エフタースコーレは、義務教育段階の8学年と9

学年（日本の中2・3年）と10学年の生徒が通う全寮制の中学校であり、思春期の生徒が対象である。1クラスあたり10名程度であり、生徒の自主性を尊重することや週に一度、全生徒と全教員の会議があることが特徴である。

フォルケホイスコーレの特徴は、①試験をせず、単位や資格の付与もない。②教師と学生が寮で共同生活する。③書物よりも対話を中心に生そのものを学び、社会性を自覚するという。④18歳以上なら性別、年齢、障がいの有無、国籍を問わず、誰でも入学可能である。⑤技術や知識を習得することが主眼ではなく、授業や討論、実践、実習、生活を通して、自己発見をし、これから生きる自分の道を探すことに力点が置かれていることである。

オレロップ体育アカデミーはこのフォルケホイスコーレの一つであり、体操やスポーツに主眼を置いた学校である。オレロップ体育アカデミーの教師になるための条件は、①専門の科目を教える技量があること。②専門の科目をデンマーク語と英語で教えることができること。③人間性であり、教員資格は必要条件ではないが取得している方が有利となる。

4. デンマークの教員養成

公立の教師はグループ契約による自治体雇用の身分であり、校長だけが公務員である。教員資格には、①就学前教育教員（養成カレッジは短期（1～3年課程））、②義務教育学校教員、③後期中等教育学校教員、④職業教育学校教員の4種類がある。

フォルケスコーレ教員の養成教育課程は、1. キリスト教研究/生活の哲学、2. 主教科デンマーク語 or 数学（両方の選択可）、3. 三つの選択主教科（人文教科群・自然科学教科群・実技/芸術教科群）、4. いずれかの主教科に関連する課題研究、5. 教育学、教授学、心理学、教育理論、社会の中の教育等、6. 教育実習（24週間）がある。4教科担当が前提であり、各教科に関する評価は外部試験で行われている。

ギムナジウム教員の養成教育課程は、担当クラスの教員が指導教員を務める実地指導課程（実践を通じて教育指導の計画、実施、評価の技能や力量を身に付ける）と理論課程（教育学コースと教科教育コ

ース)がある。教育学コースは、4～5日間の2回のモジュール(①養成コース初期段階、②実地指導過程終了後)で行われ、教科教育コースは、3～4日間の短期集中形態である。(教育学コースの①モジュールに続いて配置、教育学コース(①養成コース初期段階)⇒教科教育コース)

教師の人事や勤務条件は、フォルケスコレとギムナジウムはほぼ同様である。定年は67歳、採用は空定員が生じた時に公募であり異動制度はない。年間勤務時間は1924時間であり、週37時間勤務、年間勤務日209日である。休暇法により年間5週間(3週間は連続)が保障され、子育て休暇は1歳以下で最低8週～最大26週である。

5. まとめ

1931年9月に小原國芳がブック校長と体操チームを日本に招聘して以来、日本や玉川大学・玉川学園にとって歴史的に重要な関係を維持しており、今後もオレロップ体育アカデミーと永続的な関係性が継続されていくと考えられる。

日本とデンマークの教育制度や教員養成を比較するとその違いは非常に大きく、デンマークの教育の根底にはグルントヴィーやコルの教育思想が反映されていることがわかる。

日本にも公立や私立の学校はあるが、デンマークのフォルケスコレ・エフタースコーレ・フォルケホイスコーレは、カリキュラムや教員の採用に至るまで非常に特徴的であり、歴史的背景や思想の影響により独自性が高いと考える。

玉川大学と協定関係にあるオレロップ体育アカデミーは、体操やスポーツに主眼を置いたフォルケホイスコーレの一つであり、デンマーク独自の教育制度の上で成立していることがわかる。

以上を踏まえ、玉川大学・玉川学園とオレロップ体育アカデミーとの歴史的な関係性や双方の教育制度等を理解した上で、2018年3月のオレロップ体育アカデミーでの体操の指導法・補助法及びスポーツに関する指導法の研修をすることは有意義であり、その成果をまとめ、研究を続けることで今後の健の教育に貢献したいと考える。

(研究代表：工藤亘)

<参考文献>

クリステン・コル、清水満編訳『コルの「子どもの学校論」』新評論、2007年

江口千春『デンマークの教育に学ぶ』かもがわ出版、2010年

児玉珠美『デンマークの教育を支える「声の文化」』新評論、2016年

日本教育大学協会『世界の教員養成Ⅱ欧米オセアニア編』学文社、2005年

オーヴェ・コースゴー著、川崎一彦監訳、高倉尚子訳『光を求めて』東海大学出版会、1999年

ラジオ体操50周年記念史編集委員会『新しい朝が来た』簡易保険加入者協会

佐々木正治『デンマーク国民大学成立史の研究』風間書房、1999年

清水満『[改訂新版]生のための学校』新評論、2007年

https://www.gikai.metro.tokyo.jp/images/pdf/oversea/2101_3.pdf (2017.7.4アクセス)

資料

年	デンマーク・Gymnastikhejskolen i Ollerup	日本・玉川大学
1783	グルントヴィ誕生	天明の大飢饉
1814	フォルケホイスコーレ(公立学校)法によって義務教育制度施行	
1816	コル誕生	
1844	グルントヴィの教育理念を基に最初のフォルケホイスコーレ「Redding Højskole」誕生	
1851	コル「Ryslinge Højskole」「Ryslinge Efterskole」設立	
1856	コル最初の私設小学校「Dalby Friskole」設立、フリースコーレの起源	
1864	第2次シュレスヴィヒ・ホルシュタイン戦争(デンマーク戦争)敗戦	池田屋事件
1865	ドイツにシュレスヴィツに州・ホルシュタイン州を奪われる、ダルカス工兵士官「外で失ったものは、内でも取り戻そう!」、デンマークでの体操発展に重要な役割を果たすことになるVallekilde Højskole開校、ヴォランタリー体操(軍隊や学校での強制的な体操に対して国民が自発的に行う)が普及	
1867	修好通商航海条約締結	大政奉還・王政復古
1880	ニルス・ブック誕生	
1887		小原國芳誕生口
1899	スウェーデン体操を学校体操に正式導入、デンマーク体操連盟(DGF)結成	
1904		体操遊戯取調委員会発足「スウェーデン体操を学校体操として採用すべき」
1905	スウェーデン体操を軍隊に正式導入	
1909	ニルスブック 国立体操練習所で体操教師資格取得 タイルマン研究所で療病体操師の資格取得	
1912	ニルス・ブック 教員資格取得 ストックホルムオリンピックでブック率いる競技チームが銀メダル獲得	ストックホルムオリンピックに日本が初参加(嘉納治五郎団長・選手2名)
1913		学校体操教授要目制定、小原國芳、香川師範学校教諭
1914	第一次世界大戦勃発	小原國芳、広島高等師範学校教諭
1915	ニルス・ブック「基本体操」の原理試行開始	小原國芳、京都帝国大学入学
1919		小原國芳、成城小学校主事就任
1920	ニルス・ブック「Gymnastikhejskolen i Ollerup」設立(初代校長)	
1921	ニルス・ブック「基本体操」	小原國芳、八大教育主張講演会にて「全人教育論」発表
1922		文部省の海外留学生として3年間、三橋喜久雄は米国、英国、ドイツ、スウェーデン、デンマークで体操を学ぶ
1924	ニルス・ブック『基本体操』出版	
1925	Gymnastikhejskolen i Ollerupで学んだヨギーネ・アビルゴーとアナ・クローによってスノホイ体操ホイスコーレ設立(女学校)	＊アメリカ「メトロポリタン生命保険会社」副社長R.コックスが保険加入者の健康増進や衛生思想の啓蒙を図るためラジオ体操を導入
1926		学校体操教授要目の改訂、小原國芳、七年制成城高等学校校長就任
1927		小原國芳は「世界の体育・体操家の中で一番偉いのは誰か」と尋ね三橋喜久雄は「ニルス・ブック氏です」と答えた
1928		逓信省(郵政省)簡易保険局が昭和天皇ご即位の大礼を祈念し、「国民保健体操」(旧ラジオ体操第一)制定。体操考案委員長:北豊吉、委員:大谷武一、森橋次郎、森秀、藤本光清、三浦正三、松本福穂(下線は東京高等師範学校時代の三橋喜久雄の教え子)
1929		小原國芳が玉川学園設立、齊藤由理男、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1931	小原夫妻欧州教育行脚 ニルス・ブックの体操チーム(26名)が日本に招聘される	日本中にデンマーク体操普及、満州事変 玉川学園・玉川大学が「オレロップ国民高等体操学校東洋分校」に認定
1932		旧ラジオ体操第二制定(デンマーク体操の影響を受けている) 鉄道省より要請を受けて齊藤由理男派遣「国鉄体操」確立
1936	第二次世界大戦勃発 ニルス・ブック『基本体操』出版	学校体操教授要目第二次改訂 小原國芳が永野修身海軍大将の招きで江田島の海軍兵学校で出会う
1937		「海軍体操教範」が作成され、「海軍体操」となった
1939		旧ラジオ体操第三制定、永井道明制定委員長、日本国民の気はくの高揚と精神の高揚を図り、より強壮に、より活動的にした体操
1941		立川・宇都宮の両陸軍航空学校に玉川の体操が導入され「航空体操」誕生
1945	第二次世界大戦終戦	
1946		旧ラジオ体操中止、新ラジオ体操(第一～第三)制定、放送開始。 GHQによる干涉。国民精神高揚と挙国一致の手段として軍国主義体制を支える役割を果たしたと考えていた。号令に難色
1947		学校体育指導要綱「体育科」 新ラジオ体操放送中止。民主教育・号令がなくても気持ちよくできる楽しい体操
1948	ニルス・ブック『基本体操』出版・確立	
1949		学習指導要領小学校体育編告示
1950	ニルス・ブック没 アーネ・モルテンセンとヨーゲン・ボーゴがGymnastikhejskolen i Ollerup校長就任	「ニルス・ブック70回誕生記念祭」を玉川学園開催
1951		現行のラジオ体操(第一)の放送開始、体操考案・制定委員に三橋喜久雄・大谷武一ら
1952		現行のラジオ体操(第二)の放送開始、体操制定委員に、三橋喜久雄・大谷武一ら
1953		橋本道、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1957		橋本道『新しい体操』玉川大学出版部
1960		門脇朗示、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1963		古谷太郎、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1966	アーネ・モルテンセンが単独でGymnastikhejskolen i Ollerup校長就任	永井三三昭、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1970	オレロップ体操ホイスコーレ創立50周年祭に体育海外研修団32名参加 橋本道『基本体操』玉川大学出版部	
1975	オレロップ体操チームが日本へ招聘される モルテンセン校長に日本から勲三等瑞宝章授与、小原國芳にデンマーク王国よりダンネブルク勲章授与	
1976	グナー・ハンセンがGymnastikhejskolen i Ollerup校長就任	
1977		小原國芳没、田中五造、Gymnastikhejskolen i Ollerup私費留学
1978	小原哲郎玉川大学学長とグナーGymnastikhejskolen i Ollerup校長との間で「体操教育交流に関する協定書」締結	
1981		山本繁夫、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1990		前田二郎、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
1998	ウフェ・ストランビュールがGymnastikhejskolen i Ollerup校長就任	
2006		工藤亘、Gymnastikhejskolen i Ollerup留学
2009	国民学校法改正(0学年を義務化)	
2012	小原芳明玉川大学学長とウフェGymnastikhejskolen i Ollerup校長との間で「体育教育交流に関する協定書」締結	
2014	国民学校法改正(「毎日45分間何らかの運動を授業に加えること」が義務化)	
2017	日本・デンマーク外交関係樹立150周年	
2018		K-16体育科教員(8名)によるオレロップ体育アカデミーへの短期研修と共同研究
2020	Gymnastikhejskolen i Ollerup設立100周年	
2029		玉川学園設立100周年
2031		「オレロップ国民高等体操学校東洋分校」設立100周年